

welche sich nach hinten etwas erweitert und verseicht. Seiten des Mittelsegmentes skulpturlos, glatt und glänzend.

♂. Unbekannt.

Holotypus : ♀, Towada, 21. IX. 1957, K. Shimoyama leg.

Paratypus : 1 ♀, Ibidem.

Anmerkung. Die relative Grösse des Nebenauges zwischen dem vordere und den hintere, sowie dessen Verhältnis zu OOD oder POD ist ziemlich veränderlich.

Schrifttum

Tsuneki, K. 1956. Die Trypoxylonen der nordöstlichen Gebiete Asiens (Hymenoptera, Sphecidae, Trypoxyloninae). Mem. Fac. Lib. Arts, Fukui Univ., Ser. II, Nat. Sci., No. 6, Pt. 1 (pp. 1-42, 4 Taf. 22 Textabb.).

Tsuneki, K. 1956. Classification of the Japanese species of Trypoxylon (Hym. Sphecidae), with notes on some problems of their ecology. (In Japanese). Ins. Ecol. (Tokyo). Vol. 5, No. 13, pp. 119-128.

付記：さきに(昭和31年)筆者は本邦から14種のジガバチモドキを記録した際、これに追加される種を見出すことは当分あるまいと思つたのであるが、今般十和田湖に程近い莫川の中学校長下山健作氏の努力により、たちまちこの確信は打破られ、1新種の追加を余儀なくされた。ここにこれを記載し、学名を同氏に捧げ、和名をシモヤマジガバチモドキと命名する。本種の♂は未知であるが、♀は下記の特長により、容易に既知種と区別することができる(昭和31年, 生態昆虫第5巻13号に発表した検索表参照)。

(1) 第1腹節は柄状でない (2) 前脛節に黄褐色部あり (3) 8.0 mm より大 (4) 触角上隆起は低く瘤状(ここに残る他種はみなこの隆起は高く鼻状である)。

京都産の注目すべき銀口蜂

昨年夏、木村輝夫氏の御所蔵標本を拜見した時、次の3種類の銀口蜂が含まれていることを知つた。これらは、いずれも、日本では、北海道及び本州の北部、中央高地地方からだけ知られている種類で、京都地方から得られたことは注目に値する。木村氏の御徳意に感謝しつつここに記録する。

1) カゲロウギングチバチ *Crossocerus (Coelocrabro) walkeri* (Shuckard)

1♂, 芹生峠, 30. V. 1937 (木村輝夫採集)

この種の従来記録は、欧州、ウスリー地方、北海道(定山溪)、本州(日光)である。なお本州では、日光の他に加賀白山麓(市の瀬及び小池)を追加することができる。

2) ガロアギングチバチ *crossocerus (Coelocrabro) heydenii* Kohl

1♀, 芹生峠(木村輝夫採集)

3) クビワギングチバチ *Lestica (Lestica) collaris* Matsumura

5♂♂, 芹生峠; 2♂♂, 比良(木村輝夫採集)。

(常木勝次)